

第4回 現地での面接のポイント

技能実習生の面接については、制度上、監理団体が現地で行うことが推奨されている。ただ、私たちは受入施設にも可能な範囲で現地入りすることを提案している。

理由は3つある。1つ目は、実習生がなぜ合格したのか、理由やプロセスを明確にすることで入国後の実習に生かせるため。2つ目は、実習生が生まれ育った国の文化を肌で感じることで、日本での環境づくりに役立てられるため。3つ目は、面接合格後に講習を受ける現地の学校がどんな環境で、どんな勉強をしているかを視察できるため。学校の質が分かれば、

今からでも遅くない

賢い介護技能実習生の

活用術

ライフケア医療介護事業協同組合
専務理事 庄司孝正



どう受け入れるべきかイメージが湧くだろう。そのためには既に合格しその学校で講習を受けている「先輩」と対話するのが有効だ。また、講習時に生活する寮も視察したい。現地の生活環境を認識することは、数年間にわたって

入国後の実習・生活を見据えて



▲インドネシアでの面接の様子(左端が筆者)

実習生を受け入れるのにとっても重要だ。そのため、経営層だけでもよいが、実習や生活の支援実務に携わっている社員が同席したほうが効果的だろう。

ほかに、▽病気や家庭の事情などで入国できなくなる場合に備え、事前に相談しながら、1名補欠合格を出す▽気になる点を納得していくまで聞

く▽通訳が伝える回答の内容だけでなく、表情も読み取るなども面接のポイントになる。こうした点を押さえて面接・視察を行うには、少なくとも丸一日かかる。事前準備を整え、計画的に行動することが大切だ。

配属まで1年以上 「面接したら実習生はすぐ日本に来られますか?」とよく質問される。答えはNoだ。実習生は面接に合格すると、まず入国要件となる日本語能力試験N4の取得を目指す。個人差はあるが、一から勉強した場合、合格まで半年程度はかかると言われている。在留資格取得までの時間も考慮すると、面接から入国までの期間は概ね10ヵ月間。入国後は約2ヵ月間の法定講習があるので、受入施設に配属されるまでは1年以上かかると思っほしい。

それでも、1年後に日本人職員を採用できる保証がない一方で、実習生は1年後にほぼ確実に受け入れられる。施設側としても魅力を感じるだろう。そのためにも面接を重視してほしい。

庄司孝正プロフィール
ライフケア医療介護事業協同組合 専務理事
1999年から大手企業グループで介護保険制度スタートに伴う新規事業立ち上げプロジェクトに参画。以降およそ20年にわたって介護業界に身を置き、施設運営や企業経営などに従事。2017年からライフケア医療介護事業協同組合の専務理事を務めている。現在は監理団体での外国人技能実習制度に関する業務に携わるほか、介護分野における同制度の普及・啓発に向けた活動を行う。